

緑化活動

1. 自然緑化活動

■ 「富士山の森」再生活動に社員がボランティア参加

1996年の台風17号は富士山周辺の国有林、民有林にかつてない風倒被害（750ha）をもたらしました。これらの被害箇所の復旧、再生は国有林や民有林を問わず緊急の課題となっています。

「富士山の森」再生活動推進協議会（事務局：特定非営利活動法人「地球緑化センター」）は、1997年、関東森林管理局東京分局と静岡森林管理署の協力を得て、植林・間伐・自然観察などを目的とした、第1回目の「富士山の森」再生活動を実施しました。沖電気は、沼津地区・東京地区を中心に、第1回目から毎回この活動に、社員がボランティアとして参加しています。2000年度までに、合計12回の活動が実施され、合計約6haにわたって植林や間伐作業が行われました。



植林前のミーティング

■ 日光杉並木の保全活動に協力

近年、特別史跡、特別天然記念物の日光杉並木街道の荒廃がひどく、年間100本もの枯死伐採を行う状況です。

財団法人日光杉並木保護財団では、民間に杉を売却し、その益金を基に衰弱した並木杉の樹勢回復事業（落雷で炸傷した杉の樹皮を削り、殺菌剤を塗布することや活性剤を注入すること、あるいは露出した根元に土盛をすること）を行う「日光杉並木オーナー制度」を推進しています。

沖電気は、その活動に賛同し、1997年7月より2本の杉のオーナーになり、現在も継続しています。



日光の杉

2. 工場緑化活動

沖電気は工場緑化に積極的に取り組み、社外からの受賞をいただいています。

本庄地区では、建物の撤去に伴い伐採される予定の桜の木を植え替え、蘇らせました。



蘇った桜（本庄地区）